

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成28年6月16日 (2016.6.16)

【公開番号】特開2014-234831 (P2014-234831A)

【公開日】平成26年12月15日 (2014.12.15)

【年通号数】公開・登録公報2014-069

【出願番号】特願2013-114733 (P2013-114733)

【国際特許分類】

F 1 5 B 11/00 (2006.01)

F 1 6 H 61/00 (2006.01)

【F I】

F 1 5 B 11/00 D

F 1 6 H 61/00

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月20日 (2016.4.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

以下、本発明に係る油圧制御装置につき好適な実施の形態を挙げ、添付の図面を参照して詳細に説明する。なお、特に断りのない限り、以下における「下」、「上」は、各図面中の下、上に対応する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 8】

この間、作動油の一部は、第 2 連通孔 9 0 を介して第 2 弁孔 3 4 から導出され、スプリング室 3 5 a 及び第 2 プール 8 8 (図 8 参照) に貯留される。スプリング室 3 5 a 及び第 2 プール 8 8 に貯留された作動油は、第 2 弁棒 3 2 に対するダンパとしての機能を営む。すなわち、スプリング室 3 5 a の重力下、上方に第 2 プール 8 8 を形成して作動油を貯留することにより、作動油は、第 2 弁棒 3 2 が移動する際、スプリング室 3 5 a から第 2 プール 8 8、又はその逆方向に、ダンパーオリフィス 9 1 を介して移動する。このため、第 2 弁棒 3 2 における油圧振動の発生を抑制することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

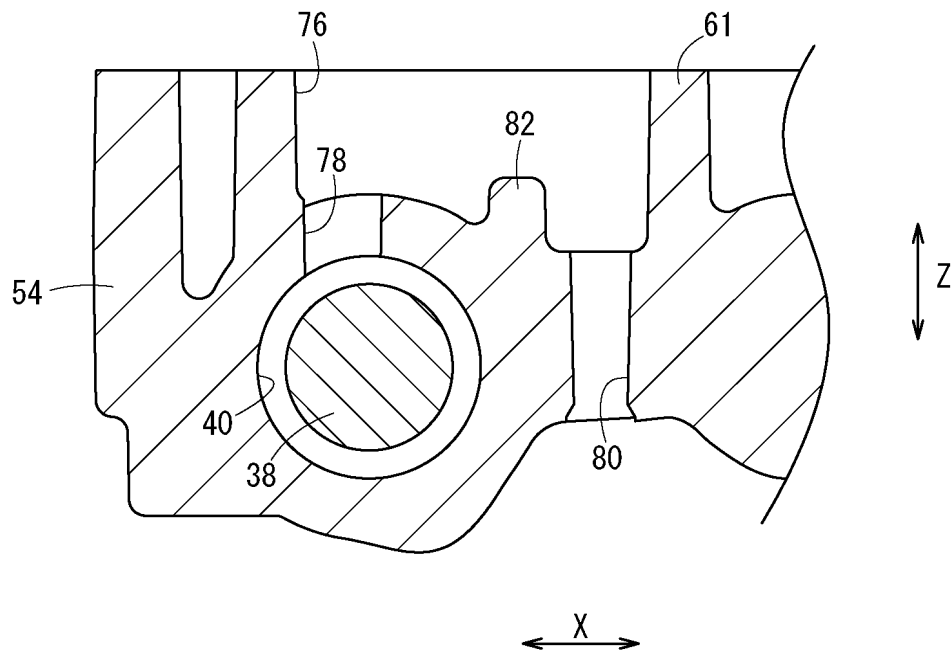
【補正対象項目名】図 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 7 】

FIG. 7



【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 図面

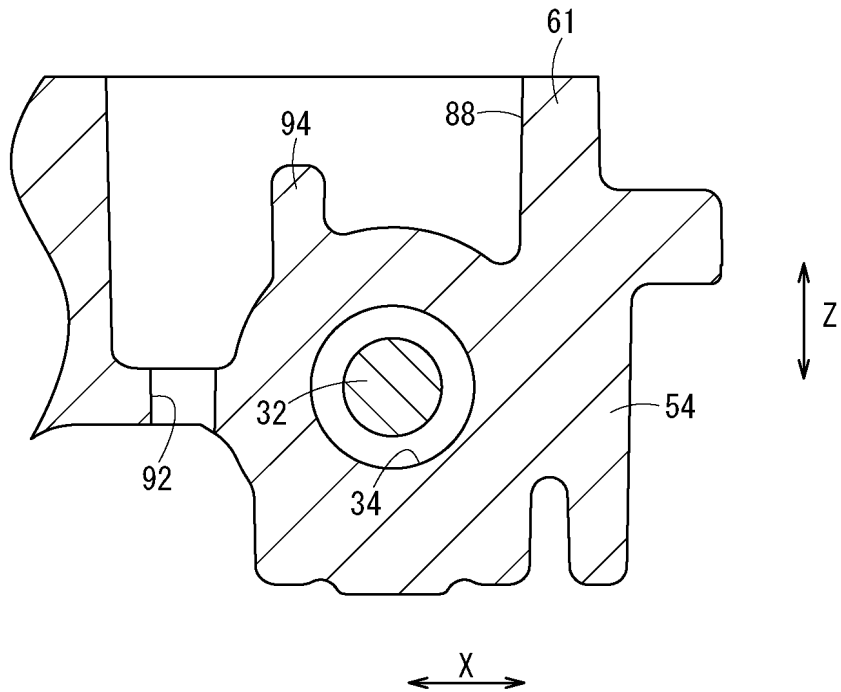
【 補正対象項目名 】 図 8

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【図 8】

FIG. 8



【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

FIG. 9

